

東京農業大学稲花小学校

学校だより【5月13日~17日】第6号



稲花タイム「食と農の学習」【田植え】の学習。

農大稲花小学校では、学校名の由来にもなっている稲、そして、お米やごはんについて、子どもたちに様々な学びを提供しています。

入学式で配布した記念品のお箸は、その第一歩。協賛企業(アルファ食品)からのお赤飯も、そうですね。

そして、毎日の給食でも、おいしいごはんが、楽しみです。ごはん、おこわ、季節の混ぜごはん、子どもたちは笑顔を見せてくれます。

5月にはいよいよ、稲花タイム「食と農の学習」で稲の学習が始まりました。第一回目は、東京農大の入江憲治教授に貸与していただいた様々な稲の品種を見比べたり、白米・玄米・種もみの違いを観察したりしました。稲花タイムのまとめに描いた子どもたちの観察図は、力作ぞろいでした。苗の観察も、わくわくするのではないでしょうか。

そして5月第4週は、いよいよ田植えです。

この田植えは、東京農大の農芸化学科の3名の教授による準備と指導の下、農大稲花小学校の教職員、さらに、東京農大の学生や院生も参加して、神奈川県青葉区田奈の水田をお借りして行われます。水田は東急田園都市線田奈駅のそばで、周囲には住宅地がひろがる場所ですが、一級河川恩田川に沿って畑や田んぼが残っています。この地で長く農業を営んできた農家さん(東京農大の卒業生)に指導をお願いしています。

この水田は、今までも東京農大の教育や研究に活用させていただいてきた場所で、今年も小学校も仲間入り。当日は、子どもたちに、手植えを経験させる予定です。田んぼの中は歩きにくいので、転んでしまうかもしれません。泥の感触を楽しめる子どもも、苦手な子どももいることでしょう。安全を第一に、しかし、子どもたちには、新しい体験に挑戦させていきたいと思っています。

もしかすると、田植えをやったことあるよ!という子どもたちもいるかと思います。しかし、しっかりと予習し、また、田んぼのあぜで当日、大学教員から土や水についてお話を聞くことで、この体験を確かな学力に結び付けたいと考えています。知っている.....やっただことがある.....ではなく、新しいことを学ぼうとする前向きな姿勢を身につける機会としましょう。

当日は、小学校から1年生全員がバスで往復、雨天決行です。昼食は現地で、おにぎりを食べる準備をしています。概ね6～7人の子どもたちに一人の指導者(教員または学生)が付き添って田植えです。おそらく、今までよりちょっと多めの冒険心が必要な、一歩進んだ体験となることでしょう。

幼児教室のご担当者様向け 説明会を開催しました

農大稲花小学校の新入生が、ようやく小学校に慣れたころ、年長さんをお子様にもつご家庭では、早くも、今秋の入学試験が気になる時期となります。

5月16日木曜日には、小学校受験を専門にされる幼児教室の先生方を対象に、説明会を開催しました。農大稲花小学校の教育や子どもたちの日々のご紹介に続いて、今秋の入試についての説明を行いました。

その後、校内見学となり、農大稲花小学校の校舎で児童が学んでいる様子を、初めてご覧いただきました。稲花タイムで見た植物を熱心に描く様子、あるいは、元気のよい声の響く英語の勉強の様子に加えて、トマトやジャガイモが育つテラス、新しい図書がいっぱいの図書館、人工芝のグラウンドなど、普段は公開しないところもご覧いただき、農大稲花小学校への理解を深めていただく機会となりました。

お忙しい中、お参加いただきました先生方、ありがとうございました。

なお、お子様と保護者様対象説明会は5月25日に開催いたしますが、現在、キャンセル待ちの状態(事前予約制)です。

また、8月下旬に年長のお子様とその保護者限定の説明会を予定しています。詳細については、HPにてご案内いたします。

校長 夏秋 啓子